



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

初冠雪はどのように観測しているの？

気象台の職員が周辺の気象状況を目視で観測する際に、合わせて観測しています。福岡では、脊振山(標高 1,055 メートル)の初冠雪を観測しており、昭和 27 年(1952 年)から記録が残っています。今年は 12 月 18 日に初冠雪を観測しました。

秋から冬にかけて寒くなってくると「〇〇山で初冠雪を観測」と記事になることがあります。この知らせを耳にすると、雪はすぐそこまで来ていることを実感します。前後して観測される初雪とともに、冬の訪れを告げる最初の便りといってもいいかもしれません。

ふもとから見て、山頂が積雪で白く見えることを「冠雪」といい、寒候年に初めて見えた冠雪を「初冠雪」と言っています。ここで「寒候年」というのは聞きなれない言葉ですが、初冠雪や初雪などは年をまたいで翌年に観測されることもあるため、正式には「寒候年〇〇年の〇〇山の初冠雪は〇月〇日」というように記録されます。たとえば「寒候年 2022 年」といえば、2021 年 8 月から 2022 年 7 月の期間のことになります。また、冠雪は山における初雪とは違います。冠雪が見えない程度の少しの雪はもっと以前に降っていたかもしれませんが、雪が積もっても雲に隠れて見えなかった場合もあるからです。



気象庁では、令和 3 年 12 月現在、全国で 44 の山岳を対象に初冠雪を観測しています。この中には百年以上も前から初冠雪を観測している山もありますが、こういった経緯で現在の山岳を対象に初冠雪を観測するようになったのか、当時のはっきりとした記録は残っていないようです。各地の気象台から見て概ね標高が 1,000 メートル以上の代表的な山岳が選ばれているようです。

国内では、北海道旭岳(標高2,291メートル)と富士山(標高3,776メートル)の初冠雪が早いのですが、今年は富士山の初冠雪の発表が見直されるという珍しいことがありました。富士山では、真夏に雪が降ることもあるため、山頂の気温(日の平均)がその年の最高が出現した日以降に、初めて冠雪を観測した日を初冠雪としています。今年は8月4日に日の最高が出現したものとして9月7日に初冠雪を観測しましたが、その後、9月20日になって今年の日最高が更新されたため、9月7日の初冠雪は9月26日に見直されました。

脊振山の初冠雪の記録を過去の平年値でみてみましょう(表参照)。平年値は10年毎に更新される過去30年間の平均(はれるんマガジン2021年5月31日号参照)なので、平年値が更新されるたびに、古い10個の値が最近10年間の値と入れ替わることになります。過去3回の平年値でみると、更新されるたびに数日遅くなっていることが分かります。

脊振山の初冠雪の平年日	統計期間
12月4日	1970年~2000年
12月8日	1980年~2010年
12月10日	1990年~2020年

冬の訪れは、高山では早くも9月から始まり、北にある山、標高の高い山の順にやってきます。積雪の多い地域などでは、冬を越す準備も忙しくなるはずです。冬の訪れを知る目安として観測している初冠雪や初雪の便りは、四季のはっきりとした日本ならではの取組といえるのではないのでしょうか。

ご意見をお待ちしています

お気づきの点があればご意見をお寄せください。また、素朴な疑問や質問を募集します。電子メール、Fax、あるいは郵便(はがき、封書)で下の宛先までお送りください。お待ちしております。

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台防災調査課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

Fax：092-725-3163

e-mail：fukuoka_bousaichousa@met.kishou.go.jp

次回の発行は2022年2月の予定です。